

令和3年に皆様からお寄せいただいた寄付金
37,680,300円(2,257件)は、
令和4年度の次の事業に活用・充当いたしました。

| 寄付金の使途 | 寄付件数 | 寄付金額(千円) | 活用・充当した事業 |
|-----------------|------|----------|---|
| 新型コロナウイルス感染症対策 | 353 | 5,353 | 新型コロナウイルス感染拡大防止広報啓発事業 ※R3寄付金のうち723千円は、R3年度事業に活用。R4寄付金のうち21千円は、R4年度事業に活用。 |
| 新型コロナウイルス医療対策支援 | 33 | 723 | |
| 防災・減災 | 66 | 1,264 | 地区防災計画策定促進事業 |
| 若者の働く場 | 81 | 1,434 | 拠点運営事業 |
| 水資源 | 51 | 804 | 香川用水の水源巡りの旅事業 |
| 健康長寿 | 67 | 1,262 | がん検診受診促進事業 |
| 子育て | 440 | 7,143 | 第3子以降保育料免除事業 |
| 教育 | 83 | 1,321 | 「さぬきっ子学力向上」事業 |
| 農林水産業 | 64 | 1,116 | 「おいでまい」等ブランド強化事業 |
| 産業振興 | 23 | 376 | 香川の希少糖ブランド化推進事業 |
| 観光 | 69 | 864 | 観光客の利便性・満足度向上事業 |
| 環境保全 | 74 | 1,119 | 森とみどりの祭典開催事業 |
| 動物愛護管理 | 154 | 4,003 | 動物愛護センター事業費 動物愛護センター運営管理費 |
| 野生鳥獣保護 | 45 | 1,074 | 傷病鳥獣保護事業 |
| 瀬戸内国際芸術祭 | 34 | 469 | 瀬戸内国際芸術祭推進事業 |
| 栗林公園 | 44 | 614 | 栗林公園特別会計繰出金 |
| 香川丸亀国際ハーフマラソン | 13 | 257 | 香川丸亀国際ハーフマラソン大会開催事業 |
| 高校生花いけバトル | 5 | 55 | 全国高校生花いけバトル開催事業 |
| 奨学金返還支援 | 13 | 140 | 奨学金を活用した大学生等の地方定着促進事業繰出金 |
| 地域スポーツチーム | 7 | 80 | 地域密着型スポーツ魅力向上事業 |
| 知事におまかせ | 538 | 8,209 | 四国インターハイ開催事業 |

第3子以降保育料免除事業

| R4年度事業費 | うち寄付金活用額 |
|-----------|----------|
| 148,292千円 | 7,143千円 |

3人以上のお子さんを扶養する世帯に対して、第3子以降の保育料等を減免し、世帯の経済的負担を軽減することにより、子どもの健やかな成長のために適切な環境が等しく確保されるよう子ども・子育て支援を行うことを目的としており、保育所、幼稚園、認定こども園および地域型保育事業所において、教育および保育を受けた際に保護者が支払うべき保育料等の減免を行った市町に対して減免額の半額について助成を行いました。

令和4年度実績

- ①3歳以上で教育認定を受けている子どもに係る副食費
 - ②3歳以上で保育認定を受けている子どもに係る副食費
 - ③3歳未満で保育認定を受けている子どもの保育に係る保育料
- 合計2,425名分 延べ26,380ヶ月分(市町への助成額148,292千円)



香川県の合計特殊出生率は1.51(令和3年現在)であり、全国11位となっており、令和2年(合計特殊出生率1.47、全国第17位)より上がっておりますが、香川県での出生数は5,802人(令和4年分)と過去最低となっております。

次代を担う子どもたちを安心して産み、健やかに育てることができる「子育て県かがわ」を実現するため、結婚から妊娠・出産を経て、青少年育成までの切れ目ない支援を総合的に推進していきますので、引き続きご支援をお願いいたします。

地区防災計画策定促進事業

| R4年度事業費 | うち寄付金活用額 |
|---------|----------|
| 3,926千円 | 1,264千円 |

南海トラフ地震等の大規模災害に備え、地域防災力の強化を図るため、地域住民が主体となって地域における防災活動について定める、地域密着型の地区防災計画の策定を支援しました。

令和4年度実績

- ・ 県内の自主防災組織等が市町と連携して行う、地域の災害リスク等を把握するためのまち歩きや防災マップの作成、専門家を交えた勉強会の開催など、地区防災計画策定にむけた取組に対して支援を行うため、香川県地区防災計画策定促進事業により助成を行いました。
- ・ 香川県地区防災計画策定促進事業採択件数: 14件(その内12件については、令和4年度中に地区防災計画が完成。残りの2団体についても令和5年度中の完成を予定)

県では、スマートフォン向け防災アプリ「香川県防災ナビ」を運用しています。ぜひダウンロードしていただき、いざという時の備えにご活用ください。



炊出し訓練の様子

香川用水の水源巡りの旅事業

| R4年度事業費 | うち寄付金活用額 |
|---------|----------|
| 3,031千円 | 804千円 |

香川用水の恩恵や水資源の重要性についての認識を深めるため、県内の小・中学校が実施する香川用水関連施設の見学に要する経費の助成事業などを実施しました。

令和4年度実績

- 平成6年度に事業を開始して以来、令和4年度までの累計で参加者は16万7千人を超え、香川用水関連施設を訪れた児童・生徒は、水の大切さや環境とのかかわりについて学習し、水資源に対する認識を深めています。
- ・ 参加学校数: 36校(早明浦ダム1校、池田ダム1校、香川用水記念公園28校、香川用水記念会館7校)
 - ・ 参加児童・生徒数: 1,352名

宝山湖見学の様子



「さぬきっ子学力向上」事業

| R4年度事業費 | うち寄付金活用額 |
|----------|----------|
| 20,885千円 | 1,321千円 |

県学習状況調査を通して、児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握し、指導方法の工夫・改善に役立てるとともに、児童生徒の理解の程度に基づく個に応じた指導などを実施する契機としています。

令和4年度実施状況

・ 令和4年度も、「教科に関する調査」において、今、求められている思考力、表現力等を問う問題を重視して作問し、その状況を把握した。また、「児童生徒質問紙調査」「学校質問紙調査」を実施し、児童生徒の学習や生活、学校の取組み等の状況を把握するとともに、学力との相関についても分析した。

【児童生徒質問紙調査】

学習や生活の諸側面等に関する調査を質問紙の形式で実施

【学校質問紙調査】

学校の取組みや児童生徒の状況等に関する調査を質問紙の形式で実施

・ 県内の小学校第5学年と中学校第2学年の全児童生徒を対象に、小学校157校、中学校71校(附属学校及び県立学校を含む。)で実施した。

・ 質問紙調査の結果から、「学習意欲」「言語活動」等について、各学校の取組みを見直し、検証改善サイクルの確立に努めた。

・ 報告書をまとめ、各学校に配布し、各学校の授業改善の参考となるようにした。

児童生徒の学習や生活の状況及び学校の取組状況を把握することができ、特に授業における話合いの質を向上させる必要があることが見えてきました。今後とも、香川の子どもたちの学力向上に向けた取組みにご理解・ご支援いただきますようお願い申し上げます。

理科授業の様子



がん検診受診促進事業

| R4年度事業費 | うち寄付金活用額 |
|---------|----------|
| 3,115千円 | 1,262千円 |

がん検診の受診率向上のため、休日に乳がん検診・子宮頸がん検診を実施する「かがわマンモグラフィサンデー」など、がん検診を受診しやすい環境づくりに取り組みました。

かがわマンモグラフィサンデー

乳がん月間である10月の休日に、県内の医療機関(※)の協力を得て、広域的に乳がん検診・子宮頸がん検診を実施しました。

※個別検診:26医療機関、集団検診(検診車):県総合健診協会

令和4年度実施状況

- ・ 乳がん検診受診者数 396名(個別検診293名、集団検診103名)
- ・ 子宮頸がん検診受診者数 195名(個別検診 60名、集団検診135名)

がんは、生活習慣の改善による予防や、検診による早期発見・早期治療が重要です。定期的ながん検診を受診しましょう。



検診車

情報通信産業育成・誘致事業(拠点運営事業)

| R4年度事業費 | うち寄付金活用額 |
|----------|----------|
| 28,285千円 | 1,434千円 |



情報通信関連産業の育成・誘致の拠点「Setouchi-i-Base」の利用者のサポートを行うコーディネーターを配置し、施設利用者等からの様々な相談に対応するほか、施設利用者の増加や交流の促進に資する各種情報発信やイベント等の企画・運営等を行いました。

また、県内外の有識者や企業経営者等で構成するアドバイザーチームを組成し、Setouchi-i-Base利用者に対するメンタリングや交流を通じて課題解決を支援した。これらの取組により、本施設のコンセプトである、「人が集い、学び、交わり、共創する、オープンイノベーション拠点」の実現に向けた総合的な支援を行いました。

令和4年度実施状況

- ・ コーディネーターが139件のイベントを開催した結果、合計8,948人の方々がイベントに参加し、交流を深めた。(うち、オンライン参加者は8,038人)
- ・ コーディネーターが合計417件の相談対応を行うなど、利用者へ寄り添った支援を行った結果、13件の起業に加え、16件の新規就業、14名のフリーランスが誕生した。

高松駅前、高松シンボルタワーにあるオープンイノベーション拠点「Setouchi-i-Base」では、コーディネーターやアドバイザーによるご支援に加え、情報通信関連分野の人材育成講座やセミナーも行っていきます。ご関心がある方は、まずは、施設の見学からでもお越しただけると幸いです。コーディネーターがお待ちしております。

「おいでまい」等ブランド強化事業

| R4年度事業費 | うち寄付金活用額 |
|---------|----------|
| 5,613千円 | 1,116千円 |

県オリジナル米「おいでまい」をはじめとする県産米の消費拡大を図るため、県産米の積極的なブランドイメージの発信や販売対策を行いました。



令和4年度実施状況

- 県産米購入者に抽選でプレゼントが当たる「新米だよ！さめき米大集合キャンペーン」を実施(11～12月)
 - 新米「おいでまい」のおにぎりをPR・販売するイベント「秋の超！おいでまい！おにぎり祭」を丸亀町グリーンけやき広場において開催(10月23日)
 - 「おいでまい広め隊」による出前講座(1校)
 - HP、SNSを活用したPR活動(36回)
 - 各種メディアを活用したPR活動(8回)
 - オーブガイナースと連携したスポーツイベントでの協賛(7～9月)
 - 学校給食用「おいでまい」への助成(3円/玄米kg、642t)
- ※令和4年産は1,280haで栽培され、生産量は6,140tとなった。

皆様のご支援により、「おいでまい」は10回目の収穫を終え、今年も粒張りが良く、透き通るような高い品質のお米を消費者の皆様にご提供することができました。また、通算6度目となる「特A」評価を獲得することができました。これからも生産者の皆さんの想いが詰まった「おいでまい」で消費者の方々を笑顔にしていきたいと思っておりますので、今後とも応援よろしくお祈りいたします。

香川の希少糖ブランド化推進事業

| R4年度事業費 | うち寄付金活用額 |
|---------|----------|
| 8,249千円 | 376千円 |

大規模な国際見本市への出展を通じて、県内事業者の希少糖関連商品の販路拡大を促進するほか、県内外のイベント等において「希少糖＝香川県」のイメージを発信、浸透させることにより、本県の希少糖産業の拠点としての地位と、希少糖ブランドの確立を図ることを目的としています。希少糖に特化した県内企業の共同出展により、国内外のバイヤー等来場者の注目度が高まることが期待できます。

FOODEX JAPAN

希少糖商品の販路拡大、希少糖ブランド力の強化のため、アジア最大級の国際食品・飲料展「FOODEX JAPAN 2023」に「香川の希少糖」ブースを出展しました。(令和5年3月7日～10日の4日間、東京ビッグサイトで開催)ブース出展企業は14者。4年ぶりに行動制限なしでの開催となったため、国内外から多くのバイヤーが訪れました。会場全体の来場者数は4日間で73,789名であり、本県ブースはホールの出入口付近に位置していたこともあり常に人通りが多く、商談が活発に行われていました。

今後も県内外のイベント等を通じて香川県の産業振興に努めてまいりますので、引き続き応援をよろしくお祈りいたします。



FOODEX JAPAN 2023

森とみどりの祭典開催事業

| R4年度事業費 | うち寄付金活用額 |
|---------|----------|
| 3,410千円 | 1,119千円 |

県民総参加のみどりづくりをより一層推進するため、みどりづくりから林業・木材の利用までの総合的な普及啓発イベントを開催し、「みどり」とともに暮らす社会の実現を目指しています。

令和4年10月9日に香川県公洲森林公園で普及啓発イベント「森とみどりの祭典」を開催し、森林ボランティア団体等と協力して、県内の小学生(緑の少年団を含む)を対象に、緑の少年団活動報告や植樹体験、丸太切り体験などの、木や自然とふれあう体験をしていただくことができました。(来場者数60人)

多くの方に森づくり活動の楽しさや、やりがいを感じてもらうとともに、森林の大切さを学び、豊かな自然を満喫していただき、県民参加のみどりづくりの意識を高めることができました。



傷病鳥獣保護事業

| R4年度事業費 | うち寄付金活用額 |
|---------|----------|
| 5,398千円 | 1,074千円 |

本県に生息する野生鳥獣の保護及び、鳥獣保護思想の普及啓発を図るため、傷病等により保護された野生鳥獣が自然界に復帰できるよう、適切な治療・リハビリ等を施す事業です。公洲森林公園内に整備している香川県野生鳥獣保護センターを中核拠点とし、県獣医師会等と連携を図り、業務を行っています。

香川県野生鳥獣保護センター等にて、専門職員の手により、保護をされた傷病野生鳥獣の収容・治療・給餌・野生復帰に向けたリハビリ等を行っています。

令和4年度においては、鳥類53羽、獣類11頭を保護し、うち、鳥類20羽、獣類2頭を野生復帰させることができました。なお、令和4年度末時点において、傷病鳥獣14個体を野生復帰に向けリハビリ等を施しています。

自然の中に生きている野生鳥獣の保護やそれをとりまく自然環境の保全を通して、香川県の生物多様性の豊かさを将来に伝えていくため、引き続きご協力をお願いいたします。



瀬戸内国際芸術祭推進事業

R4年度事業費

184,637千円

うち寄付金活用額

469千円

瀬戸内国際芸術祭は、「海の復権」をテーマに掲げ、急速な近代化により、過疎高齢化など様々な社会問題を抱える瀬戸内の島々に活力を取り戻す取組みとして、2010年から3年に一度開催している現代アートの祭典です。令和4年度には、5回目となる「瀬戸内国際芸術祭2022」を開催しました。アートを道標に、船で島を巡りながら、瀬戸内の多島美や島民との触れあいなどを通じて、地域の歴史や文化を感じることができます。

令和4年度実施状況

「瀬戸内国際芸術祭2022」は、「海の復権」をテーマに、瀬戸内海の12の島々(直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、沙弥島、本島、高見島、粟島、伊吹島)と2つの港(高松港、宇野港)周辺で、春、夏、秋の3会期、計105日間開催しました。33の国と地域から188組のアーティストが参加し、213点の作品の展示と19のイベントが実施され、約72万人が来場しました。来場者アンケートでは、96.2%が「非常によかった」「よかった」と回答する等大変高い評価を得ています。また、香川県内への経済波及効果は103億円と推計されています。

会場の島々では、アーティストとの協働による作品の制作や受付、地域の特色を活かした食の提供、港での島を挙げてのあたたかい出迎え、見送りなどに地域の方々が大勢参加し、一緒になって芸術祭を盛り上げ、地域の活性化や再生に繋がる取組みが行われました。

「瀬戸内国際芸術祭2022」に多くのご支援をいただき、ありがとうございました。次回は、2025年の開催を予定していますので、引き続き、応援をお願いします。また、芸術祭を開催していない年も島々の活性化を図るため、一部の作品の公開や様々なイベントを行っています。詳しくは、瀬戸内国際芸術祭の公式サイトをご覧ください。(https://setouchi-artfest.jp/)



三宅之功「はじまりの刻」Photo Keizo Kioku

動物愛護センター事業費・運営管理費

R4年度事業費

15,556千円

うち寄付金活用額

4,003千円

香川県は、他県に比べ犬の収容数が多く、その結果、殺処分数が多い状況にあります。

このような状況を改善するため、平成31年3月に県と高松市が共同で開所した『さめき動物愛護センター しっぽの森』を拠点として、ボランティアなどと協力し、動物愛護管理の普及啓発や犬猫の適正な譲渡に取り組んでいます。

令和4年度実施状況

譲渡した犬猫の不妊去勢手術費用の助成や、犬猫の適正な譲渡に協力していただいている譲渡ボランティアによる譲渡会の開催等による活動の支援などを行っています。

ボランティアの方々との協力もあり、令和4年度については、犬742頭、猫445匹を大切に飼っていただける方のもとへ譲渡することができました。

皆さまをはじめ多くの方に、動物愛護管理について関心を持っていただくことが、犬猫の殺処分を減少させ、人と動物との調和のとれた社会の実現への第一歩だと思います。引き続き、応援をお願いいたします。



栗林公園特別会計繰出金

R4年度事業費

123,576千円

うち寄付金活用額

614千円

栗林公園内に手入れを必要とする松が約1,000本、その他パベの生け垣をはじめとする常緑広葉樹が約8,800本あり、1年から2年を掛けて職人の手で計画的に行っています。



観光客の利便性・満足度向上事業

R4年度事業費

4,120千円

うち寄付金活用額

864千円



幅広い層の観光客の誘致と、県内の宿泊を伴う滞在型観光や県内各地への周遊型観光を促進するための公式観光パスポート「うどん県おもてなしパスポート」を発行しました。

令和4年度発行部数 47,000部

四国インターハイ開催事業

R4年度事業費

123,840千円

うち寄付金活用額

8,209千円

四国インターハイは、教育活動の一環として高校生に広くスポーツ実践の機会を与え、技能の向上とスポーツ精神の高揚を図るとともに、高校生活動も含め生徒相互の親睦を深め、心身ともに健全な青少年を育成することを目的とした大会です。

四国ブロック(徳島県・香川県・愛媛県・高知県)開催に当たっては、四国4県が連携・協働し、各県民の理解と協力のもと、高校生の積極的な活動を通して、豊かな人間性や社会性を育み、次代を担う人材の育成と活力ある地域づくりの契機とすることで、多くの達成感や感動にあふれた大会を目指しました。

○開催期間

令和4年7月26日(火)～8月15日(月)

○開催競技(9競技10種目)

体操(新体操)、バスケットボール、バレーボール(男子)、登山、自転車競技(トラックレース・ロードレース)、フェンシング、アーチェリー、なぎなた、カヌー

本県では平成10年以来24年ぶりのインターハイでしたが、新型コロナウイルス感染症への対策も徹底しなければならない状況の中、無事、大会を開催することができました。

次の世代を担う高校生たちに、広くスポーツ実践の機会を与え、スポーツの振興を図るため、是非、今後とも応援よろしく申し上げます。



地域密着型スポーツ魅力向上事業

R4年度事業費

29,736千円

うち寄付金活用額

80千円

一人でも多くの方に試合会場に足を運んでもらえるよう、会場全体のエンターテインメント性を高めるイベントを開催し、試合観戦の機運醸成に向けた魅力づくりと情報発信を実施しました。

試合会場でのイベント「魅力体験 DAY」を開催するほか、球団の魅力発信と応援機運の醸成に取り組みました。また、コロナ禍が続くなかでの試合開催であったため、安心して試合観戦ができるよう、観客の皆様に対して感染防止対策を呼びかけました。



香川県を拠点に活動する地域密着型スポーツチームは、様々な地域貢献活動に取り組むほか、地域活力向上や交流人口拡大にも貢献しており、県ではこれらのチームを地域の財産と捉え、活用と支援に取り組んでいます。これからもスポーツチームへの応援をよろしく申し上げます。

全国高校生花いけバトル開催事業

R4年度事業費

7,053千円

うち寄付金活用額

55千円

花きの需要が減少傾向にあり、中でも若年層の消費が少ない中、「全国高校生花いけバトル」を起爆剤として、若い世代を中心に花きへの関心を高めて新たな需要を創出し、花きの需要拡大と花き文化の振興、さらに花きの生産振興を図ります。

「第六回全国高校生花いけバトル全国大会」

- ・ 日程 令和5年1月22日(日)
- ・ 会場 レクザムホール小ホール
- ・ 出場チーム 地区大会代表 13チーム(26名)
- ・ 大会結果 優勝 相愛高等学校「相愛 楓葉」
- ・ 来場者 300名



「全国高校生花いけバトル」への応援ありがとうございました。第七回大会は令和6年2月4日に高松市で開催予定です。引き続きの御支援、お願いいたします。

香川丸亀国際ハーフマラソン大会 開催事業

| R4年度事業費 | うち寄付金活用額 |
|----------|----------|
| 12,500千円 | 257千円 |

令和5年2月4日・5日に、3年ぶりに大会を実施することができました。今大会には、実績ある7名の海外選手と43名の国内有力選手を招待し、大会ゲストに金哲彦さん、千葉真子さんを迎え開催しました。

5日のハーフマラソンには、6,537人(申込7,417人)が出走し、4日の3km、小学生駅伝とあわせて3部門の出走者総数は6,924人(申込総数7,858人)となりました。

全国46都道府県(宮崎県以外)から参加があり、また海外からの参加もありました。

競技場や沿道では、約87,000人の市民から声援が送られ、男女のハーフマラソンで大会新記録の更新、また男子ハーフマラソンでは日本学生最高記録が更新されるなど、国内外のトップランナーのハイレベルな素晴らしい走りを間近で観戦することができ、レースを目の当たりにした子どもたちにも夢や感動を与えることができました。



今回は令和6年2月に開催予定です。この大会を通して、本県のスポーツ振興や、にぎわいづくりにも貢献し、多くの皆様に愛され、楽しんでいただける大会となるよう準備を進めていますので、今後も応援よろしくお願いたします。

奨学金を活用した大学生等の 地方定着促進事業

| R4年度事業費 | うち寄付金活用額 |
|---------|----------|
| 5,000千円 | 140千円 |



意欲や能力が高いにもかかわらず、経済的な理由で大学等へ進学することが困難な方で、卒業後は県内に就職・定着し、かつ地域の中核的企業等を担う人材と成り得る方を支援するために、卒業後の県内での定住、就業等の条件を満たした場合、第一種奨学金返還時にその返還額の一部を支援しています。

平成28年進学及び進級予定者を対象に本制度を実施し始めてから、令和5年進学及び進級予定者までで388名を認定しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止 広報啓発事業

| R4年度事業費 | うち寄付金活用額 |
|----------|----------|
| 20,323千円 | 5,353千円 |

県民の皆さまに向けて、新聞広告やテレビCM、WEB広告、街宣車による街頭啓発などにより、新型コロナウイルス感染症の感染防止につながる広報を切れ目なく実施できました。